

令和2年度第1回地域創生評価会議の結果について

- 1 日 時 令和2年8月4日（火）から7日（金）まで
- 2 場 所 新型コロナウイルス感染症の影響を考慮し書面により開催
- 3 出席者 評価委員7名 欠席なし

4 結 果

(1) 令和元年度地方創生関係交付金事業の評価

令和元年度に実施した3事業について、「地方創生に有効であった」と評価された。評価結果及び主な意見等は、以下のとおり。

事業名	評価結果	主な意見等
日立駅前再活性化事業	有効	<ul style="list-style-type: none">「屋内型子どもの遊び場」は、利用者数が多いだけでなく、利用者の満足度が高い。市街地活性化につながっており、有効であった。今後は、シビックセンター駅前広場を有効に活用するなどの活性化策を検討することが有効と考える。 (毎週露店・イベント開催など)
つながる茨城チャレンジフィールドプロジェクト	有効	<ul style="list-style-type: none">「晴耕雨読」の整備が非常に有効であった。市内企業のプロモーションにより、興味を持つ人が多かった。
わくわく茨城生活実現事業 (移住支援金)	有効	<ul style="list-style-type: none">移住支援金による利用促進は課題が残ったが、首都圏へのPR効果を確認できた。移住支援金について、対象を東京圏だけでなく、他県からの移住もしやすい要件に見直すことが有効と考える。移住支援金は直ぐに効果が出なくても、検証しながら地道に息の長い事業とすることが必要と考える。

※「ひたちの科学を軸としたまちの賑わい創出事業」は整備中のため評価対象外

(2) 第1期日立市まち・ひと・しごと創生総合戦略の総括

第1期日立市まち・ひと・しごと創生総合戦略の総括について、資料による説明を行い、評価委員から意見を聴取した。主な意見は以下のとおり。

【主な意見】

- ア 少子化対策地域評価ツールによる分析結果で課題とされた「産婦人科医師の確保」を更に進めることが重要と考える。出産は近くの産婦人科医に通うことが家族の安心につながると考える。
- イ 日立市最大の課題は、人口減少及び日立製作所の変容を先読みした雇用の場対策であると考ええる。
- ウ 市内にはJR常磐線、常磐自動車道などの交通インフラが充実しており、首都圏から人を呼び込む素地は十分にあるので、今後は、新型コロナウイルス感染症を機に、「晴耕雨読」の多店舗展開や、空き家対策を兼ねたリモート対応型シェアハウスなどの整備を検討することが有効と考える。
- エ リモートやワーケーションなどの新様式にマッチした移住支援事業や雇用の場対策も有効と考える。
- オ リモートに対応した勤労者を呼び込むためには、繁華街の賑わい創出が必要であるため、屋内型子どもの遊び場を整備した日立駅前活性化事業の一環として、屋外での飲食店事業（オープンテラス）を進めることが有効であり、密にならない賑わい創出にもつながると考える。
- カ 東京圏からの移住者獲得は地方の都市間競争であり、長いスパンで見た不断の努力と新しいアイデア、積極的な情報発信・魅力発信が肝要と考える。

以 上